

第1章 漢方とは？

◆舌は健康の“ベロメーター”

ここでは、漢方の視点から、病気の考え方をご紹介します。漢方の見方はいろいろですが、たとえば、東洋医学の診察で特徴的なものの1つになるのが「舌(ベロ)」の状態を見ることです。これを<舌診>と呼びます。西洋医学では、あまり気にすることはありませんが、実はベロの状態からいろいろなことがわかるのです。このベロを体全体の情報源として見るのが、すなわち“もう1つの医学”を表す一例と言えます。

実例を見てみましょう。こちらは正常なベロです。薄い白苔があって、ベロの色は淡紅色をしているのがわかります。

こちらは、ちょうどベロの裏側を見ているものですが、舌静脈が怒張しているのが見えます。これは<瘀血(おけつ)>、つまり血の巡りが悪い状態のベロで、唇の色も心なしか悪そうです。

こちらは、歯痕と呼ばれる歯の痕が残っています。ベロは、非常に狭く、動きの少ない口蓋内にあるため、非常にむくみやすい部位です。ですから、むくんできたベロに歯の痕が残っている状態は水はけが悪い状態、つまり、ベロが漢方で言う<水毒>の状態になっていると考えられます。

こちらは、裏熱の舌と呼ばれています。厚い黄白色の苔がついているのが特徴です。かぜをひいて高熱が出たときにこのようなベロになります。皆さんも口の中が粘ついて、食欲がなくなった経験がありませんか？裏とは胃腸のことで、その熱がこもっている状態と考えられます。

いかがでしたでしょうか？

ベロ1つを見るだけで、体全体に起こっているいろいろな状態がわかることを感じていただけたのではないのでしょうか？

西洋医学の舌診では、舌ガンなど舌そのものに見られる病変だけを重視します。つまり、同じベロを見ても、漢方と西洋医学では、情報のとらえ方が異なっているのです。これが“もう1つの医学”と言われる所以です。

西洋医学では見落としがちなことからどれだけの情報を引き出せるか、それを知ることが漢方のスキルをアップすることにつながるのです。
